

村 の 世 界

古絵図に見る
昔の栗東



安養寺村絵図（部分）
安養寺南区自治会蔵 江戸時代

会期 12月5日（土）～令和3年2月28日（日）

休館日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日休館）、12月28日～1月4日

展示解説会 12/19（土）、1/16（土）、2/20（土）いずれも14:00～1時間程度

主催・会場 栗東歴史民俗博物館

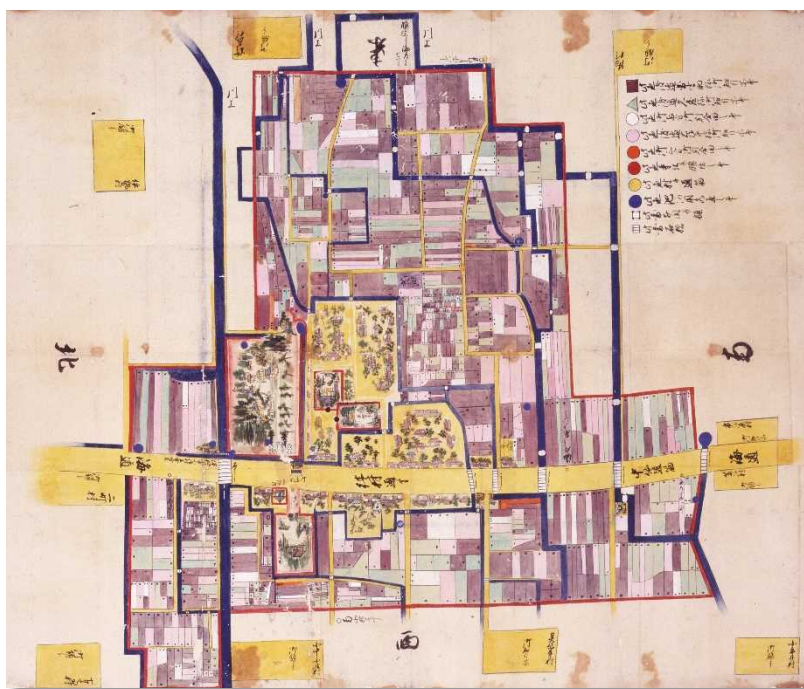
村の世界～古絵図に見る 昔の栗東～

平成13年(2001)10月に、栗太郡栗東町が栗東市となってもうすぐ20年。栗東町は、周辺の市町と合併することなく、単独で市制施行し、栗東市が誕生しましたが、一方で、栗東という名前は「栗太郡の東」に由来しています。これは、昭和29年(1954)に、栗太郡の東側にあった治田・金勝・葉山・大宝の4つの村が合併して、栗東町が誕生したことによるものです。

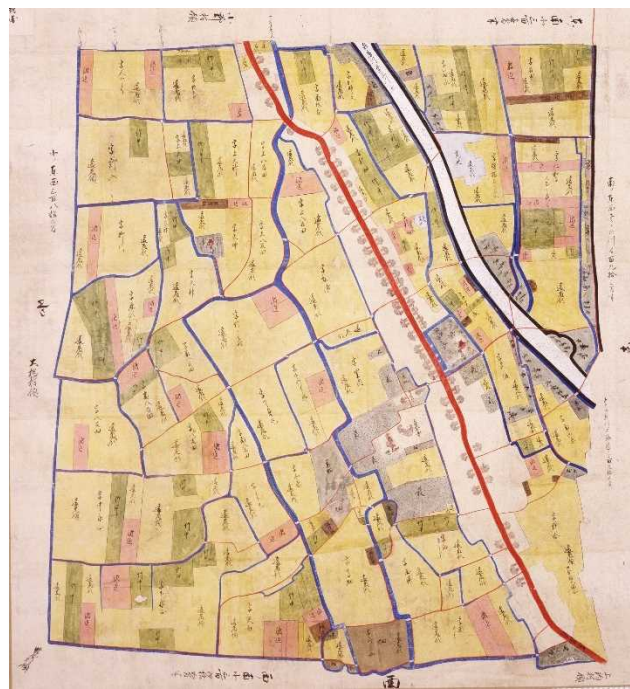
地域にお招きいただいたの歴史講座などで、こういった話をさせていただくと、ここまではご存じの方が多くても、「治田・金勝・葉山・大宝の各村は、明治22年(1889)にできた村で、それまでは現在の“大字(おおあざ)”が1つの村だった」という話になると、多くの方が驚かれます。

江戸時代の栗太郡に、現在の大字単位で点在していた村むらは、規模の違いはあるものの、いずれも農業を主な生業としていました。一方で、村によって領主は異なっており、複数の領主がいる場合も多く、村が1つの地域社会を形成する単位となっていました。そして、それぞれの村は、それぞれの歴史に裏打ちされる異なった性格を持ち、多様な景観を生み出していたのです。

特集展示「村の世界～古絵図に見る 昔の栗東～」では、栗東歴史民俗博物館が収蔵する多様な古絵図を通して、江戸時代の栗東地域に広がっていた村の世界を紹介します。



▲総村旧領絵図 大宝神社蔵(大宝神社文書) 江戸時代後期



▲手原村絵図(部分) 館蔵(里内文庫) 江戸時代

次回展覧会のご案内

小地域展「川辺の歴史と文化」(3月13日より開催)